

<p>学力調査等の状況</p> <p>【6年生】調査を行った国語・算数で都の平均を上回り、国語は都の平均の+12ポイント、算数は+13ポイントであった。全国平均と比べても国語は+13.8ポイント、算数は+17.5ポイントと正答率が高い結果であった。記述式の問題でも、国語・算数共に都平均+10ポイントを超えており、「書く」学習活動を多く取り入れてきた成果が表れている。</p>

<p>見えてきた課題</p> <p>前述の通り記述式の問題の正答率が高く、「書く」活動をどの教科でも多く取り入れてきたことで思考力の高まりに一定の成果が見られる。しかし、他者の考えを説明したり、自分のものと比べて思考を深めたりすることが苦手な傾向がある。小グループでの意見交流や話し合い活動等を通して、自分の考えに立ち戻る機会を意図的に与えていく必要があると考えられる。今年度は全学年の算数、5・6年生の社会でデジタル教科書を使用して授業を行っている。学校経営計画における自己評価の結果からも、授業におけるICTの活用に関して、取組指標平均値が昨年度より上昇しており、教員間でも、特に導入部分でのICT活用に関して自信をもって取り組んでいる様子がうかがえる。課題としては、ドリルソフトの活用に関して、取組指数が「3」を下回る結果となった。次年度はドリルソフトの授業で積極的に活用し、全ての学年で個別最適な学びの実現に向け、授業改善していくことが今後の課題である。</p>
--

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	デジタル教科書等プロジェクターを活用した資料・問題提示や児童がChromebookを活用して課題解決に向かえる問題の設定
見通しをもたせる導入	児童に興味・関心を高める導入や、児童が本時のゴールをイメージしやすくなるめあての提示
発問の工夫	児童が主体的に考え、活発な話し合いにつながる発問の工夫

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○作文や日記、スピーチや話し合い活動を多く取り入れ、自分の考えを深めたり他者との意見の違いを比べたりできる力を育てる。 ○読解力を高めるために、段落相互の関係や登場人物の心情を的確に把握できるように、音読劇やワークシートの活用を効果的に行う。 ○主体的に考えを広げたり深めたりするために、ICTを活用し意見交流の機会を多くもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉が少ないため、読書活動を多く取り入れ、文字への抵抗をなくす。自分の考えの表出についても、まずは、ペアや小グループでの意見交換や発表の場を多く取り入れることで、自分の意見を伝えることの練習をしていく。 ○登場人物の気持ちを想像しやすいように、吹き出しを入れたり、理由の部分に分けて書けるようにしたり、ワークシートを活用して学習を進める。 ○見通しをもたせたり、理解を深めさせたりするために、写真や文章、友達などの考えなどをプロジェクターに映し出して共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを深めたり、他者との考えの違いを比べたりできるように、自分の考えや思いを文章化し、ペアや小グループでの発表を多く取り入れていく。 ○音読劇やワークシートを活用することで、物語文における登場人物の気持ちを読み解いたり、説明文において、叙述をもとに読みが深めたりする。 ○学習計画を立て、可視化することで、児童が見通しをもって学習できるようにする。 ○また、ICTを活用して、友達の意見を知ったり、文章の構成を可視化して理解しやすしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことがやや苦手な児童が多いため、文章を読んで、要約したり、根拠をもとにした自分の考えや意見を書いたり、図表やグラフなどを用いて、自分の考えを書き表すなど、「書く」場を意図的に設けることで、表現力を養う。 ○情報の扱い方に関する事項が全体的に弱い。そこで、情報が何を示し、どのように整理されているのかを、ICTやワークシートを活用して可視化して理解しやすとする。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○体験や見学の機会を増やしたり、ICTを使った授業を充実させたりすることで、関心意欲を引き出す。 ○板書を問題解決の流れに即した形に工夫することで、自らの学習課題をもち、問題解決的な学習を通して、自分の考えをノートにまとめる力を育てる。 ○必要とする資料の収集方法、選択、活用の仕方を指導し、効果的な調べ学習ができる力を高める。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活科を通して、自分たちの地域や学校の周りのものや建物に興味をもてるような活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み取る指導の場面を意図的に位置付け、基本的な資料の読み取り方を指導する。また、読み取った事実を根拠に思考していく学習を確立し、事実と自分の考えを明確に区別するようにする。 ○ICTを活用し、多様な資料(写真・グラフ・年表等)に触れるとともに、資料を比較、関連させて事実を捉え、自分の考えをもつ場面も設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用し、現代の社会問題や歴史に関する課題や疑問を調べる。また、デジタル教科書の資料を効果的に活用していく。 ○学習内容をまとめる力を育てるためにノートを活用する。また、自分で調べたことから社会科新聞を作成したり、ICTを活用してまとめたり発表したりする。 ○友達との交流・協同学習を通して、自分の考えと比較し、話し合う活動を増やす。それらの活動を通して課題を関連付けたり統合させたりする学習機会を設定する。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○1単位時間または単元の終末で、確かなプリントに取り組む時間を設定する。知識技能と計算力の定着を図る。 ○下位グループでは、前学年、前単元までの学習内容をnavimaの基礎問題を活用し丁寧に振り返り、基礎基本の定着を図る。上位グループではnavimaの発展問題に取り組ませ、さらに理解を深めさせる。 ○ベーシック診断テスト、本校独自の効果測定を長期休業前に実施し、結果の分析をして指導に活かしていく。 ○デジタル教科書を導入し、問題を視覚的に捉え、児童のより深い理解につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題提示や教示の際にデジタル教科書を活用し、学習内容を視覚的に捉えさせ、理解を促す。 ○navimaは自分でログインをし、指定されたドリルに取り組むことができるようにする。 ○具体物、半具体物を操作する機会を増やし、計算の手順や数の仕組みを理解させる。 ○測量や、量感を養う算数的活動を多く取り入れるよう単元計画を工夫する。 ○練習問題に取り組む時間を+5分を目標に設定し、練習量を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題提示や解き方の例示にはデジタル教科書を活用し、解き方・考え方をまとめる際の「モデル」を示す。 ○navimaに自分でログインし、個々の学習内容の理解度やつまづきに合わせて学年を立ち戻った復習ができるように助言する。児童が自ら目標を立て、予習や復習にnavimaを活用できるようにする。 ○新しい単位が出てきたときには必ず測量の活動や単位を変えて比較する活動を設定する。 ○「+1枚(ページ)」を目標に練習問題に取り組む時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用した資料・問題提示に加え、Jamboardやスライド、フォーム等を活用して課題解決をさせたり、学習のまとめを考えさせたりする。 ○navimaやプリント、ドリルを活用し、自分の苦手に合わせて自分で復習の内容を決めて取り組めるようにする。単元の系統性を児童が確かめられるよう、算数教室の環境を整える。 ○単位換算や比較の練習問題に多く取り組ませる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○問題→予想→実験→結果の考察→まとめの流れで進め、学習の見直しをもって取り組むことで、事象の理解や実験観察の力を養う。 ○科学的な思考力を高めるため、3年では結果を比較すること、4年では関係付けること、5年では、実験における条件制御、6年では結果について多面的に考えるなど各学年において重点項目を意識して指導していく。 	/		
		<ul style="list-style-type: none"> ○差異点や共通点をもとに問題を見出す力を高めるために、児童の身近な道具や事例を取り上げた導入を行う。 ○既習事項や生活経験を根拠に予想や仮説を発想する力を高めるために、事象と身近な事例を関連付けて予想をもたせる。 ○観察・実験を多く取り入れ、基本的な技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の予想や仮説をもとに解決の方法を発想する力を高めるために、条件を整理してから実験させる。 ○妥当な考えを導き出す力を高めるために、結果の見直しをもたせて実験をし、実際の結果と比べながら考察させる。また、自分の班だけではなく、クラス全体の結果をもとに考察させる。 	

11 授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○体全体で自然に触れたり、遊びやおもちゃ作りを通して試行錯誤したりする体験を通して、科学的な見方、考え方の基礎を育んでいく。 ○活動中の気付きを整理、自覚し、伝え交流し、振り返るという流れを行うことで、問題解決をする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学年から「理科」「社会」の素地を養う活動として、実際に見る・作る・聞く・触るなどの体験を多く取り入れていく。日常的な体験や個々の活動を通して、興味をもたせたり活動意欲につなげたりする。 ○観察カードや振り返りシートを用い、考えを整理する活動を取り入れる。それをもとにした小グループの意見交流の機会をもち、他者と自分の意見の違いなどを意識させていく。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽的な見方・考え方を働かせて、学習を進められるようにする。 ○1時間の流れを掲示し見通しをもたせ、基礎基本の定着を図る。 ○表現を助ける言葉を増やすために、鑑賞カードや共通事項のカードを掲示し活用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の中で音楽を形づくっている要素に気付き、言葉や音、声にして表せるようにする。 ○知識や技能が定着しているかどうか、定期的に個別に確認する。 ○感じたことや気付いたことを発言する中で、分かりやすく表現していた児童の言葉を全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の中で音楽を形づくっている要素に気付き、音や音楽のよさや面白さに結び付いていることに気付けるようにする。 ○表現したい音や音楽に近づくために、どのような技術が必要かを考え、音や声の出し方を工夫したものを個別に確認する。 ○何に注目して鑑賞するかを明確にし、楽曲の特徴を感じ取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の中で音楽を形づくっている要素を理解し、発見した音や音楽のよさや面白さを表現活動の中で生かせるようにする。 ○身に付けた知識や技能を用いて、よりよい音や音楽に近付こうとしているかを、段階的に個別に確認する。 ○様々な要素が関わり合って音楽をつくっていることを知り、楽曲の特徴を感じ取れるようにする。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本となる技能が身に付く題材の精選と開発を行う。 ○好奇心をもち、予想を立てることでねらいや主体性をもたせ、学びに向かう力を育てる。 ○能力差に応じた個別指導を心掛け、能力差に対応できるスモールステップを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○周りの人、物、環境などに体ごと関わり全身で感じるなど、対象と一体となって活動する傾向があるため、具体的な活動を通して既成の概念にとらわれずに豊かな発想を働かせ、つくり出す喜びを味わい、表現できるようにする。 ○身の回りの作品などから面白さと楽しさを感じ取り、すすんで表したり見たりする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○素材、材料、技法の体験を豊かにし、好奇心や予想を立てる力を育む。 ○技法を複数取り入れた題材の開発を行い、主体的な表現につなげる。 ○自然環境を含めた、あらゆる場を使って体全体を使ったダイナミックな表現を体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の主題に応じた表現を、体験してきた素材や道具、技法を基に、選択して表現できる力を育てる。 ○平面、彫塑、木工の題材のバランスを取り、総合的な表現力の充実を図る。 ○作家の作品や自然への鑑賞と共に、一人一人の表現の違いや面白さを認め合う鑑賞の時間を充実させる。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲や関心を図るために、学習カードでの振り返りを充実させる。 ○授業では問題解決的な学習を用いることで、児童同士で話し合い課題を解決しようとする姿勢を育てる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間カードに振り返りを記入する時間を設定し、個々の学習状況を把握することで次時につなげる。 ○映像資料を適宜活用することで学習内容に対する具体的なイメージをもたせ理解を促す。 ○少人数によるグループ活動、実技での学び合いや話し合い活動を多く取り入れることでより良い課題解決に向かえるようにする。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○技能ポイントやシェアリングの意図を明確にすることで児童同士の伝え合いを増やす。 ○学習カードを集約して、系統性をもたせ、どの学年でも活用し、ねらいに対してしっかりと書けるようにさせる。 ○ローテーションやヨガを準備運動、整理運動等に取り入れていく。体育朝会で動きの意図を伝え、効果のある運動を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な運動遊びを通して、児童が楽しみながら基礎感覚を養わせる。 ○場の様々な工夫の仕方を提示し、自分で工夫の仕方を考えるための基盤を作る。 ○ルールや作戦を選ぶことで、自分の考えをもって学習を進められるようにする。 ○体育朝会や休み時間の活用、場の工夫、継続的活動など、運動の日常化を進め、基礎体力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてに沿って、練習する場を工夫し、どの児童も意欲的に運動できるようにする。 ○ルールを考えたり、作戦を立てたりすることで、自分の考えをもって学習を進められるようにする。 ○体育朝会や休み時間の活用、場の工夫、継続的活動など、運動の日常化を進め、基礎体力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてに沿って課題解決の練習する運動の場を選んだり、自己や仲間の考えを他者に伝えたりすることができるよう、学習カードに考えを書かせ、思考・判断・表現力を伸ばす。 ○協働的な学びを通してルールを考えたり、作戦を立てたりすることで、自分の考えをもって学習を進められるようにする。 ○体育朝会や休み時間の活用、場の工夫、継続的活動など、運動の日常化を進め、基礎体力を向上させる。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTと打ち合わせし、児童が意欲的に英語を話す機会を設ける。歌やチャンツなどを繰り返すことで英語の発音やリズムを体感させる。 ○実物投影機などで教材を視覚的に捉える機会を多くし興味関心を高める。 ○フラッシュカード、簡単なゲームを通して、英単語などに慣れさせ、読んだり書いたりする活動の定着を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ALT(外国語指導助手)と授業計画を打ち合わせし、児童が楽しみながら外国語で発問したり、答えたりする機会を多くつくる。 ○リズムに合わせた発音練習(チャンツ)、英語の歌を活用し、児童に英語を発音する機会を多く作り、慣れ親しませる。 ○振り返りシートを活用し、学習内容に対する自己の取組を確認して次時につなげられるようにする。

11 授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を設定し、主体的に調べ、まとめたことを発表する機会を設ける。 ○学習の振り返りを重視し、今後のめあてをもたせるようにする。 ○児童が考えを共有し、学びを深める時間を確保する。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や体験、映像資料などで具体的なテーマを示し、児童が主体的に調べたいことをイメージできるようにする。 ○見通しをもたせるためワークシートで振り返り、進捗状況を確認する。 ○調べた内容を、スライドにまとめ学習発表会をとして考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題設定の際に、体験や本・インターネットなどの映像資料を通してテーマに関するイメージをもたせ、調べたいことを決められるようにする。 ○見通しをもたせるため学習カードやプリントなどで振り返り、進捗状況を確認する。 ○調べた情報から、新聞やポスター、スライドなどに分かりやすくまとめ、発表を通して考えを共有する。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートは、各学年の実態に合わせた形で活用している。引き続き書く活動を重視し、ワークシートを話し合い活動の材料とすることで、「考え、議論する道徳」授業の充実を目指していく。 ○各学年教科書の挿絵を用いた板書ができるよう、教材を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の内容が理解しやすいように、挿絵を黒板に掲示する。 ○ロールプレイ等を取り入れ、児童が考えたことや思ったことを表現しやすいように工夫する。 ○ワークシートを活用し、主題ごとに自分の考えを書かせる活動を取り入れ、自己の振り返りができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の経過や登場人物の心情の変化が分かるように板書を工夫する。 ○発達段階に応じて役割演技等を取り入れ、自己の考えや思いを表現できるようにする。 ○終末の活動が、教師の話しげかりにならないように、写真・映像資料を活用するなど、ねらいに迫ることができるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の経過や登場人物の心情の変化が分かるように板書を工夫する。 ○課題がもてるように発問を精選し、個々の価値の深まりや、自己の生き方の振り返りができるようにする。 ○ワークシートを効果的に活用して、自分の生活をふり返り、よりよい自分の姿を考えられるようにする。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生活科や縦割り班活動だけではなく、集会などでも異学年の交流を進める。 ○学級活動マニュアルを活用し、活動を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いによる合意形成ができるように、学級会を行う。司会や記録などは、輪番で行い、学級会の進め方や役割などを大まかに理解させる。 ○話し合い活動と集会活動を充実させることで、話し合いの技能だけでなく、一連の活動を通して、人間関係の形成能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異学年交流や集会活動を充実させることで、企画・運営能力を高める。また、話し合いによる合意形成ができるようにするだけでなく、一連の活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 ○話し合いによる合意形成ができるように、学級会を行う。司会や記録などは、輪番で行い、合意形成の仕方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いによる問題解決ができるように、学級会を行う。司会や記録などは、輪番で行い、意見の集約の仕方を身に付ける。 ○異学年交流では、計画を立ててから活動させる。また、活動実施後には振り返りを行い、より良い活動を目指す。
外国語活動・英語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○実物投影機などで教材を視覚的に捉える機会を興味増やし関心を高める。 ○フラッシュカード、簡単なゲームを通して、英語独特のリズムや英単語などに慣れさせ、知識や書く活動の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の名前を言わせたり、ゲームや歌などを活用して色や動物などの簡単な単語を発音させたりして、英語に慣れ親しませ、中・高学年の外国語活動につなげられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームや歌など「聞く」「話す」の音声中心の学習で、コミュニケーション能力の素地を養う。 ○活動だけで終わらないように、毎時間のめあてを提示し、学習内容に対する自己の取組を確認できるように振り返りシートを活用する。 	/